

5年生「スーパーグローバル」IDEC 連携プログラム

第4回実施報告

日 時：2016年12月10日（土）13:00－16:00

場 所：広島大学附属福山中・高等学校内 A棟 会議室

参加者：生徒18名，留学生6名，大学教員1名，教員4名

実施内容

第4回 IDEC 連携プログラムは、「教育」と「平和」の分野で実施しました。第1部は「教育とジェンダー」「高校生活」「多文化主義」の3つのテーマで生徒が英語でプレゼンテーションを5分間ずつ行い、留学生からの質疑・感想の時間も取りました。その後、質疑の時間では、「ジェンダーと性差のちがいをどうとらえているか」という質問があり、議論のポイントを明確にしていくことができました。留学生からの感想では、「日本人は返事をするとき、“はい”と言いながら首を縦に振りますが、インド人は、“はい”と言いながら首を横に振る」という感想に生徒たちは日本にいないだけでは見えない文化・習慣の違いを感じることができました。

第2部では、Web mapping を用いながら、「問題の原因は何か」、「その問題に直接的、間接的に関連することがらは何か」を考えながらグループの中でブレインストーミングを行いました。第2部は20分間ごとに3チームに分かれた留学生が3つのテーマの生徒と議論する形で進め、生徒は留学生全員から意見を聞くことができました。生徒は文化・習慣といった背景の違う留学生からの新しい意見や考えを受けて活発に議論を進めることができました。

第3部の発表会では、各テーマの代表者が Web mapping を用いながら、話し合った内容とその結論を英語で紹介しました。最後に全ての活動を振り返って、広島大学の中矢先生がご講評の中で、「議論をしていく中では、課題意識を持って解決しようとするモチベーションが大切です。まずは自分の意見を持ち、テーマへの深い意見を持つように意識してください。」と話してくださいました。

今回の IDEC 連携プログラムでは、留学生からの意見をもらったり、待ったりするだけではなく、生徒たち自身も意見をもって、積極的に交流していくことが大切なことだと感じました。



【参加者の声】

- 今日はとても楽しかったです。まず「**Problem** が本当に **Problem** なのか」という根本が重要と分かりました。最初は全く話せなかったけれど、途中からは言えるようになったのでうれしかったです。自分で思っていることを伝えるのが大切だと感じました。
- 留学生にリードしてもらいつつ、自分の意見を話せたと思う。ただ、上手く英語で伝えようと意識しすぎて、話すのをためらってしまった部分もあった。まずは考えを伝えることを第一に話せたらと思う。
- 今回は前から調べていたトピックだったので、たくさん話すことができた。調査が全く進んでいなかったのでも、新しい視点を見つけることができたので本当に参加してよかったと思う。英語の方が意見を言いやすいなとも思って、これからのSGHにもつなげられそうでとても楽しかった。次はもっと話せるように頑張りたい。
- 英語を使ってできる限り話すことができたと思う。自分が良い単語を思い浮かばなかったとき、友達や留学生が考えてくれてうれしかった。また、「失敗を恐れずに話してみよう。」と言ってもらえて、英語を話す良い練習の機会だと思う。とても楽しかったので、次の回が楽しみ。
- 留学生の協力で色々な考えを出すことができたけど、自分からどんどん考えることができなかつた。その原因は、自分が異文化の人と交流したことが少なく、困った経験があまりなく、問題意識が低いからだということを知った。そういう経験をすることが必要だと思う。
- アファーマティブアクション (**affirmative action**) を日本の中で身近なところで探すのは難しかった。留学生のみなさんは自分の話題をどんどん出しているのでも、それを切り返して自分の意見を言うのは難しいなと思いました。その姿勢を見習いたいです。
- 日頃から社会についてどういう意識でいるか改めて問われた気がした。議論の技術的な面も磨きたいと思う。
- 異なる背景の人と同じテーマについて議論すると、違う意見がたくさん出てきて、考えが深まっていくのを感じた。もっと自分の英語のスピーキング能力を上げて自分の意見、考えを表現したいと思いました。



